

No.33 第2811回 令和6年3月25日

今週の歌:手に手つないで

プログラム 「会員卓話」
足立達明会員、村上康憲会員

会長 高瀬幸一郎 幹事 東口喜樹
例会日 月曜日 12:30-13:30
例会場 西脇ロイヤルホテル 2F Tel:0795(23)2000
事務局 西脇商工会議所内
〒677-0015 西脇市西脇 990
Tel:0795(22)3901 Fax:0795(22)8739

RI テーマ : CREATE HOPE in the WORLD ~世界に希望を生み出そう

表彰

○連続出席 25 カ年
来住泰幸会員



○ポール・ハリス・フェロー
渡会英明会員



3月18日(月) 第2810回例会記録

◎出席・・・会員数 47 名 出席 39 名 MU4 名
(出席免除会員 9 名・休会 3 名)

会長の時間

高瀬幸一郎会長

園田エレクトにおかれましては、二日間に及ぶ研修セミナーご苦労様でした。次年度が始動しました。セミナーの内容をまたご教示ください。



本日は中野信子さんの科学がつきとめた「運のいい人」から拝借したネタです。ネアンデルタール人と現生人類の脳の大きさを比べると、ネアンデルタール人は 1500 ccなのに対して私たちの脳は 1400 ccとネアンデルタール人のほうが大きいのです。脳全体の大きさはネアンデルタール人のほうが大きいのですが、脳の中の前頭葉という部分は現生人類のほうが大きいということがわかったのです。前頭葉は、人の言語活動、運動、精神活動を担う部分ですが、前頭葉の中でも前頭連合野は思考や創造を担当する重要な部分です。未来を見通す力、それに基づいた計画作り、利他の概念、社会性など人間らしい思考を行う部分です。つまりネアンデルタール人が絶滅してホモサピエンスが生き延びたのは、社会性に長けていたからだという見方が有力となってきています。男性ひとりなら、自分さえ強くなり、オオカミなどの敵から逃れ、自分だけの食糧

を確保できればそれで生き延びることができます。しかしヒトとして種を残していくためには、弱い女性や子どもも守らなければならない。共同体として生き残らねばならない。そのためには、みなで協力して生き延びようとする社会性が必要になってきます。ネアンデルタール人は、その社会性をもっていなかったために、進化のゲームで負けてしまったのです。会社や組織などをみてもそうですが、生き残るといのはひとつの運の良さと言えます。そしてその生き残りのコツをネアンデルタール人とホモサピエンスの脳の差が教えてくれるのです。そのコツとは、他者を思いやること。自分さえよければいいと考えるのではなく、お互いを思いやり、みなで協力して生き延びようとする社会性を持つことなのです。話は飛躍しますがロータリーの「4つのテスト」はこの社会性を持つこと、意識することを我々に課していると言えなくはないでしょうか。だから毎週唱和するのです。故齋藤会員が会長のときから始まった習慣です。

幹事報告

(来 信)

- ガバナー事務所より、
 - ・2024-25 年度地区研修・協議会のご案内
4月29日(月・祝) 10:30~16:45
於：神戸ポートピアホテル
出席義務者：次年度会長・幹事、クラブ管理運営・職業奉仕・社会奉仕・青少年奉仕・国際奉仕・会員維持増強・R財団・米山記念奨学会各次期委員長
 - ・RLI(クラブ・リーダーシップ研究会)パートIIIのご案内
4月14日(日) 9:30~17:00
於：園田学園女子大学
 - ・第44回 RYLA セミナーのご案内【再度】
4月11日(木)~14日(日)
於：神戸 YMCA 余島野外活動センター

- ・米山記念奨学会より、ハイライトよねやま
- ・加古川中央RCより、創立 50 周年記念誌

(報告)

- ・先週、新会員として発表しました藤田幸大氏の入会について、その後意義がありませんでしたので、入会の手続きに入らせていただきます。
- ・富良野RCさんより会報が届いております。各テーブルにお配りしておりますので、ご覧ください。



- 高瀬(英)会員 園田会長エレクト、初めての1泊2日のPETS参加お疲れ様でした。しっかり準備して下さい。
- 東口会員 先日の会長幹事会では、会長にお世話になりました。ありがとうございます。山口さんにもお世話になりました。
- 西山会員 小澤会員、岡井会員には大変お世話になりました。感謝！
- 吉田会員 先週の欠席をお詫びして。
- 園田会員 PETSを受けてきました。16・17日の2日間で学んだ事を踏まえて次年度のクラブ奉仕を計画したいと思います。
- 笹倉会員 小澤委員長はじめ委員会の皆様、また戸田会員にお世話になりました。
- 有田会員 いいことがありました。
- 戸田会員 出席委員会の皆様には大変お世話になりました。
- 小澤会員 先日の出席委員会勉強会にお集まりいただき有難うございました。
- 廣中会員 土曜日は、小澤会員素晴らしい設営、中川会員の送迎と出席委員会の皆様、二次会、三次会とお世話になり、ありがとうございます。
- 藤井(英)会員 出席委員会で楽しい事がありました。皆様ありがとうございます。
- 後藤(直)会員 先週の例会で笹倉会員にお世話になりました。

※本日のニコニコ 23,000 円
 誕生日・結婚記念日・連続出席 4,000 円
 ※本年度累計額 (3/18 現在) 1,430,095 円

★本日の花：スイートピー

プログラム 「会員卓話」

○藤本武彦会員

本日は、私の職業についてお話しいたします。私は昭和50年に大学を卒業して実家の藤本商店に就職しました。当時の主な仕事は、グリコのコメッコというお菓子の原料や



酒造メーカーの酒造りの原料米、玄米茶の原料を製造していました。

昭和53年、現在の場所に事務所と倉庫を建設し、社名も藤本糧穀(株)とし、個人事業から株式会社へと変更しました。仕事は順調でしたが、繁忙期には夜中まで残業するのが通常となっておりました。昭和の後半からコンピューターによる自動制御の機械装置が出現し、従業員の残業を少しでもなくすために自動化を取り入れました。10年かかりましたが、原料から製品になるまでを無人化できるようになりました。

平成7年に、西脇RCに入会させて頂きましたが、この年、阪神淡路大震災が起これ、全農の酒米精米工場が震災で潰れていたために、私どもの酒米精米に大変な量の委託がきましたが、全自動化のおかげで何とかこなすことができました。それ以降、酒米精米機を増やして全国の酒造メーカーに声掛けをし、現在の酒米販売は、自社の売上げの約半分を占めています。

平成17年、(株)玄米家を設立しました。この会社は農業を専門とした農業法人で5町の圃場田からスタートし10年余りで35町の耕作面積となりました。現在玄米家で扱っている物は飼料米、加工米で、玄米家を利用されている農家さん、営農組合、農業法人は数十件で、耕作されている総面積は約300町となっています。

昨年11月、息子たちが農業協同組合を設立したいということで、吉田会員にお世話になり、「兵庫農業協同組合」を設立しました。令和6年より私が代表理事組合長として、玄米家を利用されている方々や新たに入会された方合わせて百数名の組合員さんと共に新たな船出となりました。これから数年間は身体に気を付けて頑張ろうと思っております。

○敷原泰三会員

私の職業、繊維染色業並びに西脇の繊維関係全般のことについてお話させていただきます。

私が大学を卒業し、しばらく大阪で働き、父の急逝によりこちらに戻ってきて今年の秋でちょうど20年になります。多くの方が大変な経験をされた西脇の水害からこの秋で20年というわけです。

この20年の間に、個人としては、地元の消防団への入団(田舎の遊び方の勉強)、結婚・二人の娘の誕生、太ったり痩せたり……。仕事の上では、当初予定していなかった家業を継ぐことになったのですが、取引先の皆様、ロータリーをはじめとする様々な団体の皆様、弊社従業員等に支えられ、何とか20年やってこられました。

仕事で親しくさせていただいている方とのエピソード



ードを紹介させていただきます。

皆様のなかで御存知の方も大勢いらっしゃると思います、西脇倉庫の丸山社長から、7~8年くらい前、お酒を飲んでいる際の会話の中で、「泰三君、よう儲かるやろう。なんと言っても、水が九割やものう・・・。」飲んでいたせいもあって、それを聞いたとき、何のことやら全く理解できませんでした。丸山社長に「どういう事ですか?」と問い返すと、「漢字、漢字。染めるっちゅう漢字が水九割になるとるやないか。」と。確かに、「さんずい」は水を意味しますし、そのさんずいの右には漢数字の九、昔は木でできた桶や盥を用いて染めていました。

実際現在においても、糸1に対して染料が最大で0.1、薬品も最大0.1程度そして水が8から12という配分でやっておりますので、まさに漢字の通りなのです。

「水はタダやから、儲かってしゃないのう。ということで、今日は泰三君の奢りね〜。」ってな感じでその酒の席は盛り上がりました。(丸山社長の名誉のために付け加えますが、その店の会計は、丸山社長が払ってくださいました。)

7, 8年くらい前の事で、まだまだ私も、今にも増して未熟であったため、丸山社長に「そんなに儲かってませんよ。」としか、返答することができなかったことを思い出します。今なら、「空気10割の倉庫には負けますけど。」と、返すのですが、、、。(今日はここしか笑えるところありません・・・)

実際の漢字の由来を調べますと、諸説あるうちの一つは、流れる水(さんずい)の形と川が曲がって行き止まりになる形(九)とで、屈曲する穴の奥から流れ出る泉の意味と、大地を覆う木とで樹液などで「そめる」を意味する「染」という漢字が成り立った。というものです。

水が九割という話は、「ガチャ万」という言葉ができた西脇の景気の良いころに、染色業者に対して儲かってますねというあいさつ代わりに生まれたのではないかと、推測します。

私共が営む繊維染色業は、「水」がなくては、始まりません。北播磨の軟水(金属分・鉱物分の少ない水)を活用して、播州織の糸染めを行います。軟水の利点を活かして、できる限り少ない水量で、仕上げていきます。軟水であることで、洗いの工程でメリットが出ます。少量の水で繊維上に残留した未反応の染料を洗い流すことができます。水・時間・薬品・燃料の節約になります。隣の中華人民共和国の工場では、硬水を軟水器に通してから使用しています。

SDGSが繊維業界でも盛んに叫ばれるように年々なまってまいりました。製品の分野においては、作りすぎたものを焼却処分していたことにまずメスが入り、アパレルは、生産数量の絞り込みをおこなっています。一方で古着のリサイクル等も盛んになっています。我々生産の現場においても、製品が出来上がるまでに使用した水・エネルギー量、そして二酸化炭素の排出量まで、問われる時代に突入してきました。

播州織をはじめとする我々繊維業界は、過去にない逆風にさらされています。コロナでガクンと落ち込んだ消費の回復は鈍く、アパレルは更なる数量・柄の絞り込みを行うと見込まれます。しかしながら、この産地内で新たな動きも見られます。ある産元が縫製工場を昨年の3月に立ち上げ、これで1年。軌道に乗りつつあるところ。この産地はこれまで、生地の産地でした。それが、最終製品まで仕上げられる産地に変わりつつあります。大量生産とはいきませんが、製品までできる産地としてアピールするには十分な環境が整いつつあるわけです。

現状、この産地で出来上がった生地を港まで運び、船で中国や東南アジア諸国へ縫製に出し、縫製できたものをまた日本に戻ってきて店の棚に並べているわけですが、それをこの産地で完結させられれば、時間・エネルギー・二酸化炭素あらゆるものを節約することができるわけです。確かにコストは人件費等によりアップします。製品価格は上がります。しかしながら、昨今のSDGSやカーボンニュートラルといった新たな価値・行動目標に対して、コスト負担しても構わない、むしろそっちを買おうという雰囲気は少しずつではありますが、消費者の中に醸成されつつあるように思います。

先程申し上げた、北播磨の軟水はSDGSに欠かせない資源であります。また、この産地で作られた繊維製品は、何処の国の製品よりもCO2の排出量の少ない製品になりつつあります。(新電力会社から購入する電気について電力会社によっては、CO2ゼロの電気を購入することができ、この産地の繊維関係の多くの企業が切り替えを行っているところ。)

こうしたことを、上手くPRしていけば、今吹く逆風もしだいにそよ風となり、果ては追い風になってくれるのではと信じております。

繊維産業で大いに賑わったこの街から繊維の灯が消えることの無いよう、微力ながら尽力してまいりたいと思っております。

230年以上続く播州織の先人たちの努力が「水の泡」とならぬように・・・。

今後のプログラム

4月1日(月) 「卓話」 矢納会員
4月15日(月) 「卓話」 戸田会員

4月8日(月) 「卓話」 永谷会員
4月22日(月) 「卓話」 藤井治会員、藤井英会員

高瀬会長のテーマ：職業人としてプライドを持つ！